

(様式1)

令和6年度 学校評価結果報告書(高等学校用)

(1) 学校教育目標	(1)「協調性、創造性、知識・技術と高い職業観倫理」を育成する。 (2)「人間性豊かなプロフェッショナルとして産業界で活躍できる力」を育成する。 (3)「健全で持続的な社会の発展を担う力」を育成する。
(2) 現状と課題	(1) 学習習慣の確立及び基礎学力の定着と向上について、次年度より I C T教材等を活用し
(3) 重点目標	1 1 学習指導【(1)学習指導の充実 (2)学習習慣の確立】
	2 2 生徒指導【(1)基本的習慣の確立 (2)問題行動の未然防止 (3)特別活動・部活動の活性化と生徒育成】
	3 3 進路指導【(1)自己理解から主体的進路選択 (2)進路意識の育成 (3)学校及び地域との連携】
	4 4 工業教育の推進【(1)ものづくりへの積極的な取組 (2)安全管理と専門技術の推進 (3)将来のビジョン、具体的目標を持たせる工夫】
(4) 結果の公表	(1) 令和7年度 P T A総会において報告する。(資料及び口頭による説明 令和7年4月19日(土)実施予定 (2) 本校 H P に掲載する。 (3) 学校関係者及び全教職員には令和7年2月中旬に公表済み。

学校整理番号	33
学 校 名	青森県立青森工業高等学校
全日制の課程	

自己評価実施日	令和 6年 12月 2日(月)
学校関係者評価実施日	令和 7年 2月 14日(金)

(9) -イ 学校関係者評価委員会の構成
学校評議員5名、 P T A各学年会長、 学校長 教頭、事務長、 教務部主任 教務部事務局員

自 己 評 価					学校関係者評価	(10) 次年度への課題と改善策
番号	(5) 評価項目	(6) 具体的方策	(7) 具体的方策による目標の達成状況	(8) 目標の達成度	(9) -ア 学校関係者からの意見・要望・評価等	
1	学習指導	(1)学習指導の充実 (2)学習習慣の確立	・各教科におけるICT機器の活用は工業科、普通科を問わず年々、多様な機能を活用し、授業や実習等の中で活用し生徒たちへの理解を深められている。	B	・生徒の定員割れや生徒の在籍移動の原因に学力的なものがあるのか、目標のある生徒を受け入れていく入試選抜であって欲しい。	次年度は I C T教材を活用しながら、教員の意識改革も学校全体で行っていきたい。様々な研修を通して生徒達への寄り添った指導を行える環境作りをしていきたい。
2	生徒指導	(1)基本的生活習慣の確立 (2)問題行動の未然防止 (3)特別活動・部活動の活性化と心身ともに健全でたくましい生徒育成	・規律ある学校生活に資するよう玄関前での挨拶および事故予防への声掛けを行った。 ・PTAとの連携による交通安全指導、挨拶運動を定期的に実施し、生徒達の道徳的精神の育成に努めた。	B	・特別指導に1年生が多い事が気になる。 ・生徒・保護者と先生方の距離が近く様々な行事等にも取り組みやすいことに大変感謝している。	次年度よりClassiを活用した情報発信や緊急時への対策が円滑に行えるよう整備していきたい。学校と保護者が一体となった、きめ細やかな生徒指導が行えるよう研修等を積極的に行之い、多様化する生徒達や保護者への対応を組織的に解決できるような環境作りをしていきたい。
3	進路指導	(1)自己理解から主体的な進路選択 (2)進路意識の育成 (3)学校及び地域との連携	・県内企業への就職ガイダンスや出前授業、企業見学、イベントの精選を行い、生徒の企業への理解を図り進路意識の高揚に繋げた。 ・今年度は県内就職が増加した。	B	・県外企業と県内企業の給料の格差が大きく、求人が出しづらい。企業が外国人労働者を増やし実習が終われば帰国してしまう。地元の若者がUターンで戻ってくる際にいつでも就職できる体制を作っていますが、今後も県内への就職指導をお願いしたい。	情報技術科の県内就職先がなく、多くの生徒が進学を希望せざるを得ない現状がある中で、選択できる企業が少ない事を課題としていく必要がある。また、人材不足のため給料が高い企業が増えている中で働く価値とお金の価値がバランスを崩している事にも注意しながら指導する必要がある。
4	工業教育の推進	(1)ものづくりへの積極的な取組 (2)安全管理と専門技術の推進 (3)将来ビジョン、具体的目標を持たせる工夫	・ワークショップを通して最先端技術の授業をすることができた。 ・ものづくりコンテストを通じて入賞は出来なかったが、長い期間をかけた指導の結果、知識及び技術の向上と忍耐力も向上できた。	B	・基礎学力の低下に伴い、資格指導など根気強い指導が必要だと思われるが、多くの資格に挑戦している息子の姿に改めて先生方に感謝している。	次年度も、各学科において取得を目指した学習指導を行いながら生徒自身から進んで学習に取り組む姿勢を身に着けていかせたい。また、保護者へ資格検定がどの時期に実施されているのかをこまめに発信していきたい。

(11) 総括	(1)アンケートの結果より、教員としての道徳的な配慮を必要とする場面での指導を転換し考えていく時期に入っているため教員間での研修を充実させていく必要がある。 (2)学校の情報発信をこれまで以上に充実させ、地域・家庭との連携を図り、問題行動の未然防止につながる生徒指導を展開する。 (3)工業高校と地域企業との連携を図りながら、工業技術の魅力と若者を育てる環境作りを工業高校より発信し展開する。
---------	--